日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２５期・12巻　　２０１９年　４月号　　NO. 212

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すそのほう

Susono Reihou Alpine Club

冬上る

山行NO. １８１３
２０１９. ０４. ０５
上越・平標山

４月度例会報告

２０１９．０４．０７　　生協２Ｆ　１５：３０

１．　活動報告

	０４月０７日（日）	例会（兼、角池でお花見）	
ＮＯ．１８１３－２	０４月０６日（土）	群馬・中之条＝高田山（１２１２ｍ）	２名
ＮＯ．１８１３－１	０４月０５日（金）	平標山（１９００ｍまで）	２名
参考	０４月０４日（木）	越後駒ヶ岳＝石抱橋まで	２名
ＮＯ．１８１２	０３月２９日（金）	富士山・二ッ塚周遊	１名
個人	０３月２９日（金）	長野・鳴虫山	１名
ＮＯ．１８１１	０３月２４日（日）	富士山・宝永山＝山岳スキー	２名
ＮＯ．１８１０	０３月２０日（水）	まったりハイク＝西丹沢・ミツバ岳	９＋２名
ＮＯ．１８０９	０３月１７日（日）	富士山・二ッ塚（山岳スキー）	２名
ＮＯ．１８０８	０３月０８日（金）	乗鞍岳（山岳スキー）	２名
	０３月０４日（月）		
	あさぎり山の会・遭難対策本部詰（８：００～１７：００）		２名
	０３月０３日（日）	県連総会	１名
ＮＯ．１８０７	０３月０２日（土）	裏丹沢＝加入道山・北西尾根（女子・北尾根）	７名
参考	０２月２３日（土）	アサマ２０００スキー場	２名
ＮＯ．１８０６	０２月２２日（金）	浅間・水の搭山（２２０２ｍ）	６名
ＮＯ．１８０５	０２月２０日（水）	まったりハイキング・岩本山～潤井川	９＋３名

２．　今後予定（変更もあります・日程確認の為、山の会以外の予定も掲載しました）

４月

４月07日＝例会（角池で花見）
４月１０日＝伊豆巡礼
４月１３日＝定例ハイク・・・菰釣山
４月１４日＝安倍っ子山の会・・・４０周年
４月１６日（火）・・・まったりハイク＝秩父・棒ノ折山
４月１５日～２０日・・・・・小豆島お遍路
４月２４日＝伊豆ウオーク
４月２５日～＝春山・・・岩木山、鳥海山など
４月２７日＝ハイクの日・・・延期

５月

５月０８日（水）＝伊豆巡礼
５月１１日（土）＝定例ハイク（井上君歓迎山行）
５月１４日（火）～１８日（土）＝小豆島お遍路
５月２２日（水）＝伊豆ウオーク
５月２５日（土）＝ハイクの日

６月

５月３１日（金）～６月１日（土）か６月２日（日）～３日（月）・・・越後駒ヶ岳、ほか

3. 県連総会報告

第53期　静岡県勤労者山岳連盟定期総会　　日時:2019年3月3日(日)
会場:静岡市駿河区　　長田生涯学習センター2F第一集会室

10:00　開会あいさつ　　副理事長　花澤(山登歩)　　県連の歌　伴奏　山崎(焼津山の会)

会長あいさつ　　会長　竹本（安倍っ子）
来賓あいさつ　　全国連盟理事長浦添氏メッセージ代読　植松（沼津労山）
議長選出　　東部：福原（あさぎり）、中部：山崎（焼津山の会）
資格審査　　出席者26名、委任状6名、計33名
過半数を超えましたので、総会は成立しました。 廣瀬（浜松労山）
選挙管理委員　加藤、原田（静岡労山）　　書記　　高良、芦川（三島労山）
議長あいさつ

～議事～第52期活動総括及び会計報告
【52 期　まとめ 】　　全体　理事長　斉藤（あさぎり）
・技術学習会に関する指針書を P32 と 33 の間に入れてください
・リーフレットは 200x15 団体＝3000 枚印刷　　・ポスターは 20 枚印刷した
・山梨は 1000 枚入会案内書を配り切ったら十数名が入会した
・ホームページ、ハイキング教室は会員拡大にとても有効。朝霧は 10 名/年ぐらい入会。
保険は全国連盟の掛け捨てを利用した。　　沼津も会員数 20 名を超えた。
・磐田ケルン山の会脱退理由

ベルグ、県連に頼る必要がない。最近ではヘリコプターがある（県警など）。
平和行進などの政治的な活動が会にそぐわない。
平和更新は核廃絶のもので、磐田市も行っており、特別なものではない。理事が出せない。
絶対に出さなければ行けないというものではなく、1,2 年出せないときに待ったりもしたことがある
駿東山の会は会員が増えるにつれて、理事を出してくれるようになった。
ケルン：昨年の県連総会翌日のケルンの総会（H30.3.3）で脱退を決定したよう。
・労山に入るメリット
教育が受けられる取り組みを県連でも行う。
京都労山の全国登山研究集会報告が参考。会員外：ハイキング学校。会員向け：初級登山学校、中級登山学校

組織部　小林（清水労山）
教育遭難対策　加藤（ふじ山楽歩）
冬山雪上訓練は 5 団体 18 名の参加
春山登山、爺ヶ岳リーダー、山崎から芦川へ変更
事故報告　№2　本人：ヘリでピックアップ。下段に会員父が滑落し死亡に訂正。
清水テルサ事故者はまだ入院中　　朝霧の下山報告がない人が 1 名いる
8 ページ②、警察に提出した計画書に三種の神器の記載がなかったので問い合わせがあり強く推奨すると言われ、行き先を変更した
清水テルサの件について担当者会議ではヘルメット着用にて終わったが、オリンピックや大会でもつけていないため、県連としては不要で、義務化は避けて欲しいという旨を述べている。
自然保護部　後藤（浜松労山）→部長はケルン　西森氏だったが脱退のため

ベルグバハト活動報告　曽根崎（ベルグ隊長　浜松労山）
・当初、冬季訓練を 2/18 実施予定だったが、県連主催の雪上訓練に参加したため中止とした。
参加者はベルグ隊員が多かった。

ブロック報告
東部ブロック　山口（三島労山）　　中部ブロック　花澤（山登歩）　・交流スノーハイクは 25 名参加
西部ブロック　後藤（浜松労山）

全国理事会活動報告　全国連盟理事　竹本（安倍っ子）
全国広域理事として Web 会議を使って月に 1 回参加した

リニアについて状況問題点報告を行っている

全国ハイキング委員活動報告　全国ハイキング委員　河合（伊豆 HC）
・全国ハイキング交流集会：県連、東部ブロックの方々にご協力頂き、無事成功させることができました。
ありがとうございました。

会計報告　森（NMC）

ベルグバハト解散と新規任務についての提案　曽根崎（ベルグ隊長　浜松労山）
ページ 30-2、情勢→状勢に修正　　ページ 31-2、登山技術講習会→安全登山講習会に修正
1号議案
2号議案　1年目は現在ベルグ隊員から選出したい、5～6、または4名
登山技術学習会に関する指針書（案）
3　参加要綱（2）労山基金　基金口数の制限は必須ではないが掲載することにした。

会計監査　山本（山登歩）　木原氏（焼津）は欠席

質問＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
教育遭対総括補足　加藤（静岡労山）
・8ページ②、静岡労山で富山県警に剱岳の計画書を、三種の神器+ワカンなしで提出したところ、
携行を強く推奨します、と言われたため、八ヶ岳権現岳東稜に変更したのが経緯。
・人口壁でのヘルメット着用について、加藤（静岡労山）、小林（清水労山）がテルサ再開について、 市役所に呼ばれた。

（問）中里（三島労山）：会費低減の意見について調査結果や資料があるか
（回）斉藤（あさぎり）：いくつか下げた話はあるがまとまってはいない。全国ではいくつかあるようだが、静岡のように 210 円というような低いところはない
組織部　小林（清水労山）：年会費については、静岡では 0 円から 12000 円。事務所のありなし、会報の印刷があるかどうかでも変わっている（組織部補足は休憩後）
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
休憩1時間を挟んで、13時より採決
資格審査　代議員34名のところ、出席28名、委任状6名、全員出席　に訂正。
選挙管理委員より、立候補はただ今を持ちまして、締切とさせて頂きます。

理事長より、配布資料の説明

全国連盟　竹本（安倍っ子）
年2回発行の労山ニュース紙版を廃止。メール配信になる
ココヘリの補助金を継続する（入会金無料）。労山で1，000名加入している。
労山パートナーズは 1300 万円の損失。個人会員は最寄りの既存の会に入会された。評議会では組織拡大につながったという結論になった。

質問＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
（問）鈴木（フレンズ）磐田ケルンが止めた具体的な理由を教えて欲しい
（回）斉藤：理事のなり手がいない、以下、冒頭の説明と同じ

（問）奈木（NMC）：ベルグの解散について、遭難時に全部公的機関に頼るのは難しいと思うが、県連としてどう人を集めたりとか対応するのか
（回）斉藤：今までも県連で人を集めて行ったというのは一度あるかないかである。これまでも公的機関に頼ってきていてこれからのことは考えていない。
（意）　奈木（NMC）：昔お世話になったことがある。昔、ピックアップできないと断られたことがある。ベル

グのような組織がなくても、人を集めることができる仕組みがあれば良いと思う
（回）斉藤：議案書P17非常時連絡網　ベルグ隊はなくなるが、これをも元に各会に協力してもらうことになる。
（意）加藤（静岡労山）：東中西部の分け方を見直した方が良いのではないか。各会組織が小さくなるのにこれまでの活動を同じようにするのは無理があるのではないか
（意）後藤（浜松）：西部は2つの会しかないのでブロック単位で仕事を均等割りするのは厳しい
（回）斉藤：静岡は横に長いので、全体で、というのも難しいのではないか。理事会で検討することか？
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
会員が増えた会の報告
植松（沼津労山）：ハイキング教室を始めた。山に行った後はみんなで食事や温泉で仲良くなると朝霧からアドバイスを受けた。
年 7 回ほど行った。2 年ほどやると資料がそろってきている。ベースはハイキング　ABC。担当は一人。できない雪山は三島と合同で行った。自分のところでできないことは、他会にお願いできる。これが労山加盟のメリットではないか。

討論及び採決　総括、会計報告、ベルグバハト関連の提案は過半数で採決された。

第53期基本方針（案）　斉藤　　組織部活動方針（案）　小林　　教育遭対部活動方針（案）　加藤
自然保護部活動方針（案）　後藤　　ページ 28－3-3　ッ黄山→高山　に修正
ページ 29 自然保護 4　持ち寄り→持ち帰り　に修正
ブロック活動方針（案）　東部：山口　中部：花澤

西部：後藤　ブロックの見直しの検討を県連に依頼したが回答なし

会計予算（案）　森

斉藤：遭難対策費についてうまい使い道があれば提案してほしい（意）奈木（NMC）：中西部を一つにしてはどうか

（回）斉藤：個人的にはいいと思うが理事会でも検討させて欲しい。全県でというようなものもあれば聞かせてほしい。

（問）廣瀬（浜松労山）：ゴールデンウィーク、年末年始の山行把握と情報発信についてメリットとかなければやめたほうがいい。
（回）加藤（静岡労山）：他の会がどの山に入っている情報が分かっていれば、横のつながりや困った時に近くにいるから何か協力してもらえるなどのメリットがある
（回）植松（沼津労山）：実際に行った人がわかったので、直接生の情報を聞けたことがある
（回）斉藤：ニュースを見ていく人がいるのを知っていたので連絡して山を変えてもらったこともある
（安倍っ子。白馬岳雪崩事故）
（問）廣瀬（浜松労山）：続けたほうがいいかどうか決をとってほしい。
（意）後藤（浜松労山）：リストを事前にシェアすべき。県連に下山報告を一本化すれば現地で救助サポート体制が取れる。
（決）　消さない 21、消す 3
＊この件で広瀬より執行部提案を下げるように「修正動議」があった。「動議」は、「動議を採択するかしないか」採決をするが、静岡・加藤の提案と理事長の判断で、執行部提案が採決され可決した。
仮に否決されれば、執行部は総辞職する。本来、本会議で2回の採決はあり得ない。執行部は、もっと会議規則を学ぶべきである。また議事録に、この会議録が残されなかったが、残すべきです。

（意）小澤（山登歩）：各データのフィードバックをいただきたい
（意）：山中泊だけなどの条件をはっきりさせる
廣瀬（浜松労山）：代議員の意見を聞くことができた。活発な討論、ありがとうございました。

（問）加藤（静岡労山）：静岡市山岳 4 団体の写真展は今年はやるのか?作業が一人に集中したのでなんと

かしてほしい
（回）竹本（安倍っ子）：4 月に決まる。南アルプスに特化してしまった。今年も実施はしそう。
（意）加藤（静岡労山）：南アルプスだけにするとできる人が狭められるのでもっと広い範囲にしてほしい。
（回）竹本（安倍っ子）：次回は県下山岳団体全部について依頼していく
採決　第53期活動方針（案）と予算（案）について、過半数を超えましたので、採決されました。
（案）を削除してください。
理事信任、不信任投票
第53期三役員理事信任投票及び投票結果報告　加藤、原田：全員信任されました。
新役員、理事の選出確認及び旧役員のあいさつ　静岡労山　遠藤、安倍っ子　渡辺
議長解任あいさつ　　15:10　閉会の辞

以上　　書記　高良、芦川

４．初夏の上越の山
５月３１日（金）～６月１日（土）か６月２日(日)～３日（月）は、昨年の谷川岳同様、上越の山旅です。今年は、越後の名峰・越後駒ケ岳（２００３ｍ）です。予定をして下さい。

５、　２５周年国内記念山行・・・・・・・・・７月３０日（火）～８月２日（金）
１日＝長泉～大町（泊）　２日＝大町～黒四～奥黒部ヒュッテ（泊）　３日＝ヒュッテ～赤牛岳～水晶小屋（泊）　４日＝水晶～湯俣～帰静

６．会員動向・・・井上弘次郎さん、出向から帰り会復帰しました。

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・加藤、合谷　　写真・後藤

山行 NO　山行ＮＯ．１８０７
日　時　２０１９．０３．０２（土）曇・やや寒
山　域　裏丹沢・加入道山（１４１８ｍ）男子＝北西尾根（藪なし）、女子＝北尾根（藪ややあり）
コース　長泉７：００－道志の湯発８：５４－北西尾根（男子）－１２６２ｍ（ジャンクション・ピーク）１０：４５－加入道山１１：１８－避難小屋１１：２０～１２：３１－一般道―登山口１４：０６－道志の湯１４：２０～１５：３０－長泉
標高差　上り　道志の湯約６００ｍ～加入道山１４１８ｍ＝約８１８ｍ
下り　〃
参加者　男子隊＝後藤・勝又・水口・合谷　　女子隊＝加藤、峰田、星＝７名

【女子隊】
今日も地図読み山行だ。地図は峰田と星に渡し、私はスマホを片手に意気揚々と出発。
ところが気合いが入り過ぎてか、男子の魅力に引きずられてか、
男子隊の後について行ってしまった。ＣＬから最初の出足から「間違えているぞ！」
と叱責を受ける。どんまい！どんまい！

気を取り直して、スマホと地図を照らしあわせ取り付きを確認する。
駐車場から更に下り民家のある場所から地図上でもハッキリとわかる北尾根確認できた。
随分と急なやせ尾根だ。この尾根に登ってしまえば、後はやせ尾根の連続なので間違いなく頂上まで辿りつくと思った。

下部取り付きは、切り立った壁のような斜面で、上れそうな場所はないか３人で探す。
１ケ所、獣が通ったらしき崩れた場所があったので、其処から四つん這いで這い上がった。
足元は崩れやすく滑る。掴んだ草木は抜ける。泥沼のような斜面に悪戦苦闘をしながらも、やっと尾根にあがり一息入れた時はホッとした。ところがドッコイ！其れからも苦戦が続く。

道志の湯駐車場　　男子隊

尾根の急登は相変わらず。昨日の雨で土が泥沼化。３歩あがって２歩下がる状態。それに今度は枯れた笹の藪こぎが加わる。
平泳ぎをするように両手を水平に交互に泳がし、更に獣の糞を踏まないように足元にも気をつけながら、でも足元ばかり気をつけていると、枯れた笹の枝が目に入りそうで危ない・・・と注意を払うことに満身創痍。「糞！気をつけて！」以外、誰も言葉が出ない。
ハイキングで会話の出ない山行は初めてだ。気がついてみると、私のシャツを捲りあげた右腕は血だらけ。星の腕のシャツも血がついている。

８００m位登ったところから、しきりに犬の鳴き声がする。右に左に、下に聞こえていた鳴き声がすぐ傍で聞こえたかと思うと、目の前を走り抜け「アッ」と思う間に遠くに行ってしまった。
この犬の早さでは人は追いつけない。犬だけが何故山の中を走りまわっているのか不思議だった。でも束の間の安らぎになった。
右手に尾根が１本見える。男子隊の北西尾根だろうか。今頃はどの辺りかなぁと思いながら、きつい登りに汗も噴き出した。喘ぎに喘ぐ。喘ぐ！　「きついよぉ～！！

標高１２６２m峰・ジャンクションピーク　　**大きな岩が点在**

１１６０mの所でＣＬから「頂上に着いた。遅いねぇ」の一報が入る。３人で、「この尾根の状態では決して遅い登り方ではない・・・」と頭からボンボン湯気を出す。（単に汗の蒸気？）
それからも無言で奮闘が続く。頂上に着いたのは既に１２時をまわっていた。先着の男子隊は昼食も終えリラックスモード。私たちもやっと腰をおろし、身体を休めた。

女子隊（追記）

ピークに着いた時はやせ尾根で間違えようもないとわかっていても、２万５千図にコンパスをあて方向を３人で確認しながら地図読み山行を実施した。

これによって、星はコンパスの必要性を感じ「購入します」と意気込みを見せる。
峰田は「あるけれど持って来なかった」と言って後悔。これだけでも地図読み山行は成功かな？と思った。（加藤記）

キレイな避難小屋

【男子隊】
道志の湯を出発後、昨日、スマホにダウンロードした地図を参考に北西尾根の登り口はすぐに判った。私にとって、一般登山道でないところを登る登山は今回が 2 回目。
残雪があるかもしれないということで、軽アイゼンとスパッツを準備してきたが、
尾根を見る限り、残雪は残っていないようだ。
やはり地球温暖化で温かくなってきているのか。

人工林の急な斜面から登り始めたが、足場が枯葉や枯れ枝でふかふかで、
足に力が入り難く、登り難い。
登り口（600m）からずっと 1000m までは人工林の急な斜面の連続で、
昨日の大雨の影響もあるのか、足場が滑り易く、
手も使いながらの必死の登りが続いた。

また、月一登山のＭさんはかなり足に疲れが来ているようであったが、
皆に遅れないように頑張っておられた。

加入道山頂上

1000ｍを超えると自然林となり、勾配もだいぶ緩やかになり、登り易くなってきた。
このあたりから、気温が低いのか、雪は積もっていないが、昨日降った霰のような白い粉雪がところどころに残っており、冬山の気配を感じることができた。

そこから少し、登ると女子隊との合流予定地点のジャンクションピーク（1262m）に到着。
女子隊はまだ到着していないようなので、少し休息してから加入道山に向けて出発。
わりかし緩やかな登りを 30 分程登り、無事に山頂に到着。
結構、頂上は寒かったので、すぐに改装（H28 年）された綺麗な避難小屋に移動し、男子隊だけで先に昼食を取り始めた。

ＧＴさんはホットビールを 3 本飲んで、上機嫌。
私も昨日作った弁当とビールで元気回復。
やはり、厳しい登りを登った山頂での昼食は美味しい。

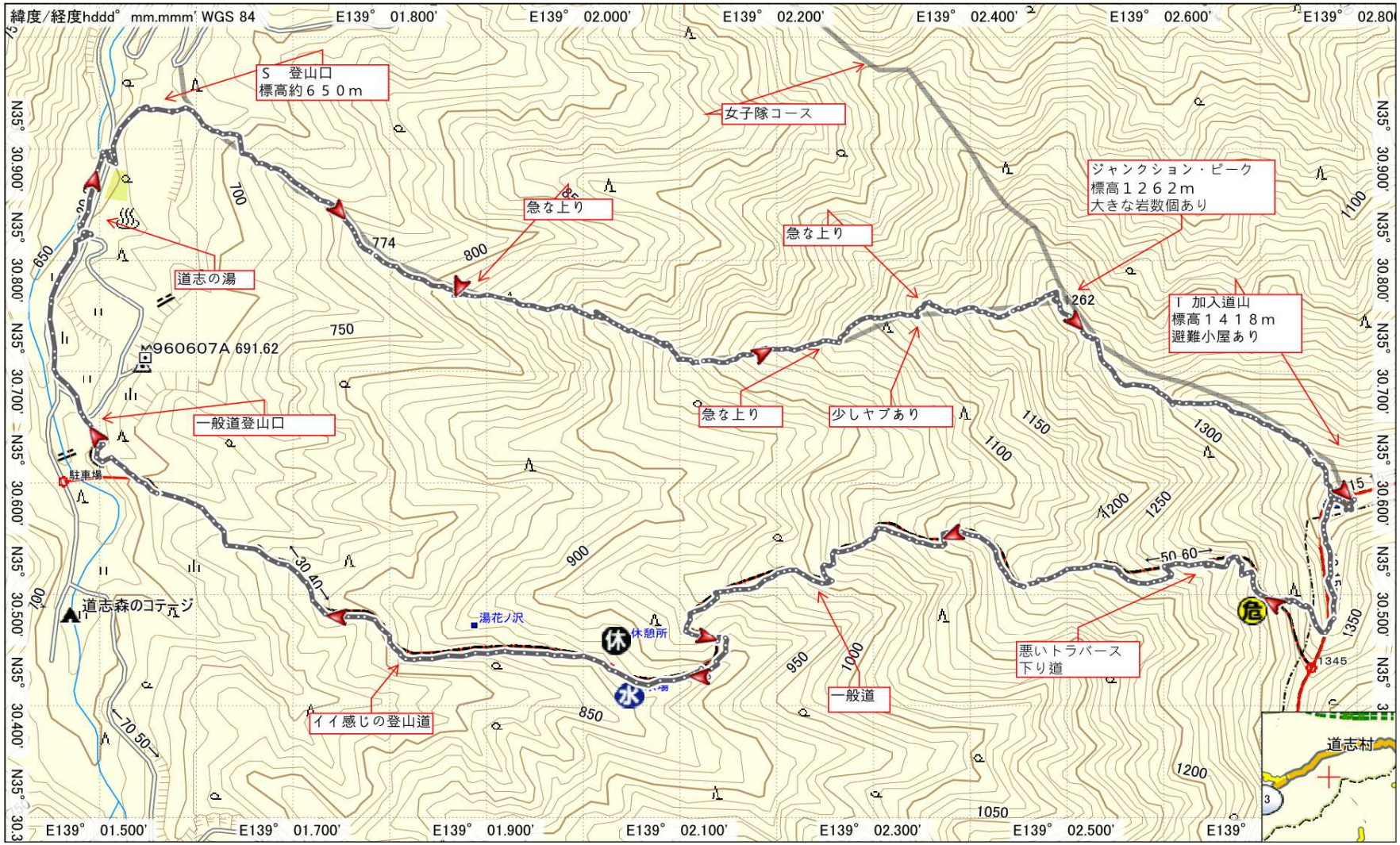
男子隊の昼食が終わったころに女子隊が合流。女子隊の昼食終了後、下山開始。
ただし、登りが女子隊、男子隊とも相当に厳しかったので、下りは一緒に一般道を下ることにした。
しかし、下り始めて、すぐに急な下りの上に昨日の大雨で道がぬかるんでいて大変な悪路であった。
私の下り方が不安定なようで、Ｋさんから下り方の指導を受けるが、これまでの 62 年間の歩き方を一朝一夕に変えることは出来ないと思った。

この悪路を抜けると、緩やか下りとなり、気温も温かくなり、快適な下山道であった。
途中に鹿よけの柵があり、そこを通る時はドアを開閉して通るのだが、本当に鹿よけの効果があるのか疑問に思った。
下山後は導志の湯で、ひと風呂浴びて、帰途についた。
一般道を通らない登山は面白いが、一歩間違えると遭難してしまいそうなので、地図やコンパス、高度計、GPS を使いこなせる能力と体力が必要と思いました。

ＧＴさんのようなベテランの人と一緒に行かないと一人では無理と思いました。　　（合谷記）

ＧＹさんのシイタケ料理が美味しかった

道志温泉から上って来た方に撮って貰った



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

2019/03/04 5:35:46

GARMIN.

裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真　後藤

山行番　３月度・まったりハイキング
日　時　２０１９．０３．２０（水）無風・快晴・高温
山　域　西丹沢・ミツバ岳（８３４ｍ）～世附（よずく・ゆずく）・権現山（１０１８ｍ）
コース　長泉６：００－御殿場―丹沢湖―車回送―登山口発７：４３－ミツバ岳９：０６－権現山１０：１５～１１：０２－二本杉峠１２：００－上ノ原１３：０１－温泉「時の栖」－御殿場―長泉
標高差　上り＝登山口約３５０ｍ～権現山１０１８ｍ＝約６６８ｍ
下り＝権現山１０１８ｍ～上ノ原約３５０ｍ＝約６６８ｍ
参加者　Ｌ後藤、加藤、高岡、鈴木綾、峰田、星、合谷、松本、浅野、一般２人＝１１名

長泉６時発。丹沢湖登山口から登山開始。下山は上ノ原なので、
車を１台回しておいた。
最初から急登。登山口に「マムシクサ」が芽吹いていた。

しばらく人工林が続いたが、上部は美しい自然林が広がっていた。
林には春の温かな陽光が溢れていた。野鳥が、「チッチチッチ」と忙しい。

地表をよく観察すると、小さな小さな「フデリンドウ」が咲いていた。
本日お目当ての「ミツマタ（三椏・の花＝ミツバ)」が、チラホラ現れる。
時期的には丁度良いようだ。三角点の８３４．２ｍ着。このピークがミツバ岳。
花は凄かった。満開状態でサイコーのタイミング。皆さんの歓声が響く。

香りもイイ。沈丁花の香りだ。（三椏はジンチョウゲ科）
西には花越しに富士山が大きかった。３月にしては雪が多い。記念写真をおさめて権現山に向かう。

途中、右手の東斜面のミツバ群生も素晴らしかった。
５０ｍほど下り、権現山の厳しい上りが２００ｍ。上から何人か下って来た。
上りきれば権現山。

明るく広い頂上は春の陽光が溢れていた。
時間はやや早かったがここで昼食。
皆で車座になり弁当を広げる。様々なものが回って来る。山は食べることが一番の幸せだ。
これは、昔から変わらない。

宴は１時間ほど。お腹は満腹だった。普段、昼食は軽めなので苦しい。
頂上の杭を利用して記念写真後下山。下のベンチには登山者が数名休んでいた。

頂上から急坂を下って行くと二本杉峠。峠から上ノ原に向かう。
何処かの女子２名に抜かされた。天気は相変わらず良かった。
下りきれば上ノ原集落。車を回収する。

近くにはイイ温泉がある。時の栖が新しく開店した。
時間がある方は温泉に入る。ただ、多忙な５名は早帰した。
時の栖はＪＡＦ割引で４００ー。広くキレイな温泉で４００ーは有難い。

今回は、お目当てのミツバ（三椏）は最盛期で素晴らしかった。
皆さんもよく歩きました。次回も頑張り楽しみましょう。

【鈴木綾子さんの感想】

素晴らしい晴天でとても暖かい。
朝、カトー車（高岡・杉山・鈴木あ）とゴトー車が殆ど待つ事なくセブンイレブンで合流し、
そのまま出発する。道の駅でトイレを澄ませ登山口に向かう。

登山口で車のデポに行った後藤さんと加藤さんを待ち出発。
先ず登りがとても急登で、とにかく息切れが凄く苦しい！
でも枯葉をちょっと覗くと「まむし草」が顔を出し可愛い。

あまり綺麗ではないけれど・・・・。桜も咲いている。
登りがほんのちょっと緩やかになった頃、木々がガラッと変り冬の木立が何とも穏やかで心和む。
富士山も雪をかぶり木々の間からしっかり顔を出している。

丹沢湖も良く見えている。
頂上に近づくと「みつまた」が群生していて、黄色も濃く良い香りもする。
本当に見頃で心に焼きつく。

小さな小さな「りんどう」も日だまりに咲いている。
頂上で「みつまた」と富士山を背景に写真撮影をする。

休む間なく権現山に向かう。
権現山頂上で昼食。チョット早目のお昼だけれどいっぱい食べる。
そして下り。時のすみかのお風呂組（６人）とそのまま帰る（５人）と別れる。
大変だったけれどお風呂で疲れもとれ早めに帰る。

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　山行ＮＯ．１８１３－１
日　時　　２０１９．０４．０４（金）
山　域　　上越・平標山（１９８４ｍ・１９００ｍまで）
コース　　松手山登山口６：３０－鉄塔７：５６－松手山―八合目１０：０１－標高約１９００ｍ
　　地点―鉄塔１２：４０－登山口１３：２７―中之条（泊）
標高差　　上り　登山口約９８０ｍ～引き返し点約１９００ｍ＝約９２０ｍ
　　下り　　〃

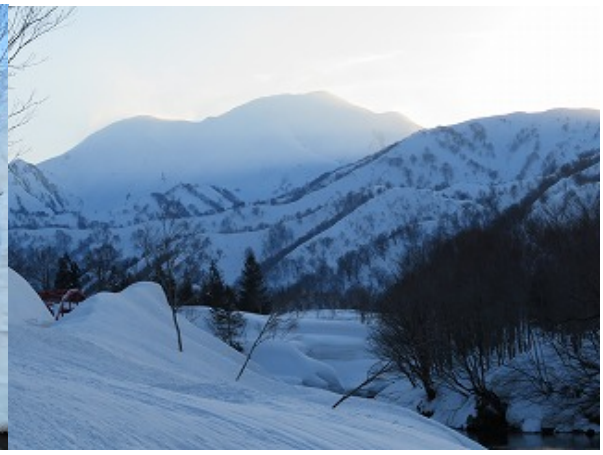
０４月０４日（木）晴・晴
山岳スキー予定で、越後駒に向かった。
ただ、数日前から寒の戻りで新潟・長野方面は大雪だった。
先日の焼山・北面台地もそうだったが、春の大雪は始末が悪い。雪が重くスキーにならない上、雪崩のリスクが大きい。実際、その時、栂池・尾瀬燧ケ岳・八方尾根で事故があり４名の方が亡くなっていた。

関越を飛ばし小出ＩＣを下りた。奥只見シルバーラインは、１８時以降通行止めになる。問題があ

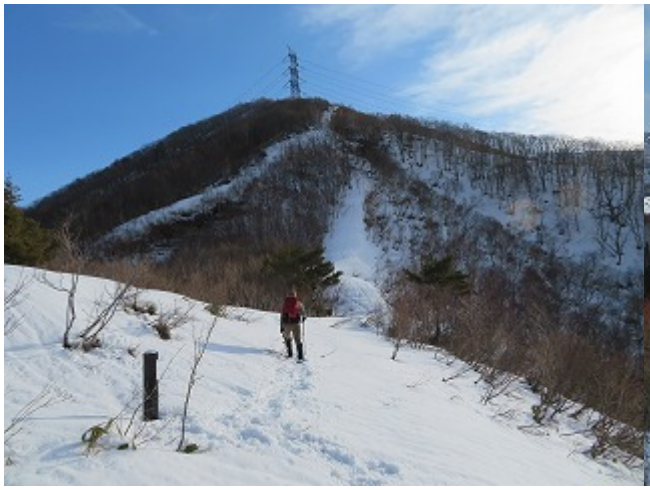
ったらその前に出ないと翌朝６時まで缶詰になる。敏速な行動・判断力が必要だ。
１８ｋｍの長い長いシルバーラインのトンネルを通過し、途中で右折して越後駒の登山口の石抱橋に着いた。しかし、現実は厳しいものだった。

地元の方の話では今回、１ｍの積雪があったという。橋は重い雪で覆われていた。勿論、トレースはない。先日の乗鞍岳もそうだったが、この雪ではスキーにならないし、駒までとても行き着くことは出来ないだろう。潔く諦めた。決めればユックリは出来ない。１８時前に出ないとマズイ。飛ばしに飛ばして脱出。関越トンネルを越えて、谷川岳ＢＰに入った。
谷川岳の雪も同じだった。スキーは止め登山に切り替える。久しぶりに西黒尾根と考えたが、上部の急斜面を考えると、雪崩のリスクが大きかった。

雪崩事故は避けたい。雪崩事故は当事者の判断である程度は避けられる。ここは雪崩リスクが少ない山域を選択すべきだった。結論は、平標山を選んだ。


銀山平

０４月０５日（金）晴・上部強風（この日、春一番だった）
早朝、ＢＰを出た。料金はなし。ここのトイレは、ウオシュレットでなかった。
水上から赤谷ダムへ山越えのつもりだったが、道路表示がイマイチで結局、関越経由だった。
三国峠から火打峠に下る。懐かしい。
ここは９７年４月以来だった。松手山登山口から出発。数日前のワカン跡があった。

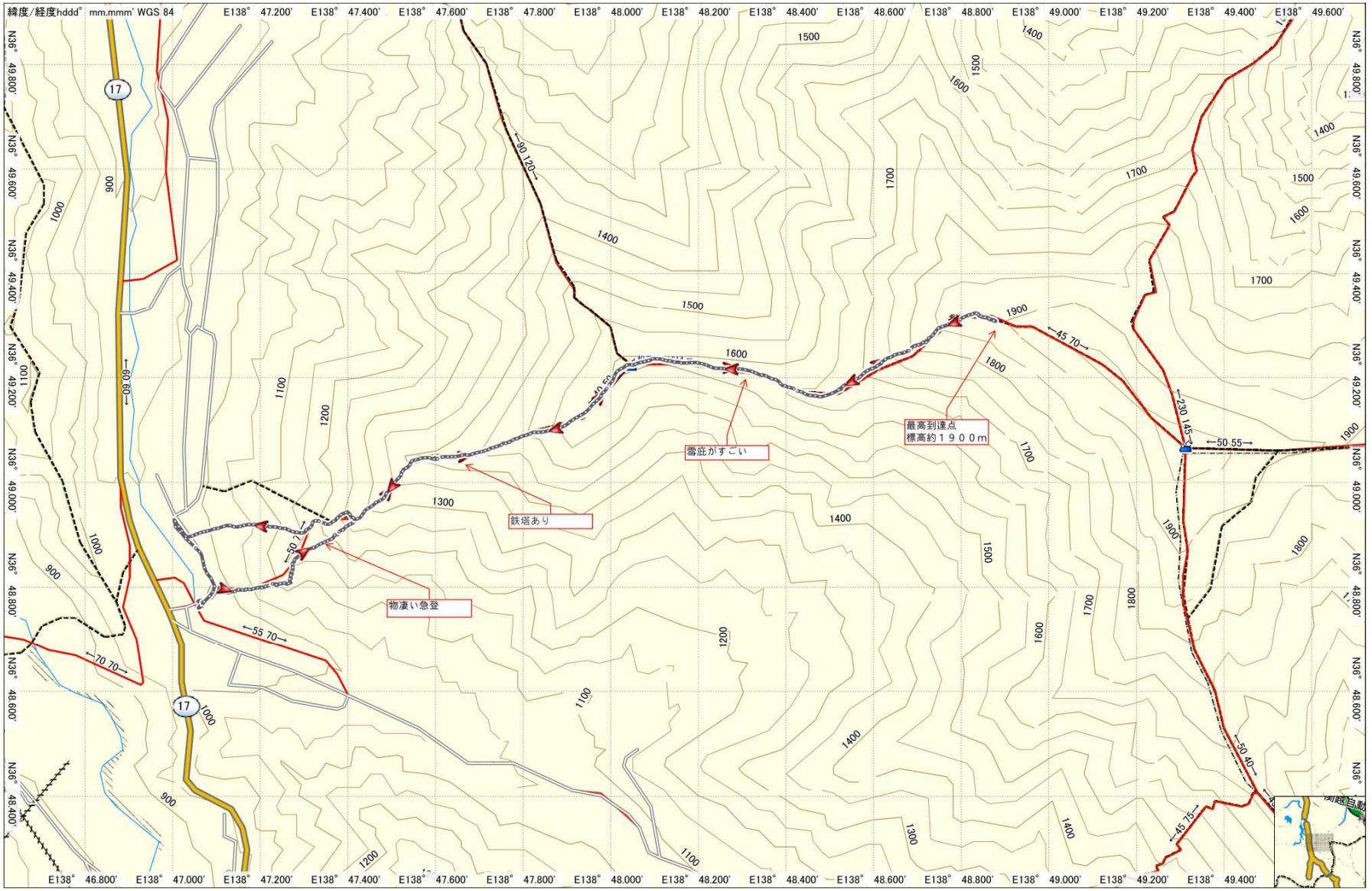


出だしから物凄い急登だった。
前方に大きな鉄塔が見えた。例の巨大鉄塔だった。
振り返れば苗場スキー場が広がっていた。ただ、既に終了。雪がまだタップリあるが残念。
深い「あんこ雪」に難儀しながら上る。こんな「こてこて雪」は珍しい。
ひと上りで巨大鉄塔着。ここでアイゼンを履いた。
松手山に達すると素晴らしい展望が広がった。右手に巨大な雪庇があった。
今にも落ちそうだった。

八合目

松手山から少し下る。
下りきると厳しい上り。相変わらず潜りまくる雪に苦労する。ようやく八合着。
風が出て来た。九合に達すると風は更に強く、暴力的になった。下山して判明したが、この日、「春一番」が吹いたという。凄い風の訳だ。
頂上まで３０分。標高約１９００ｍまで上ったが、余りの風にここで断念。山はまだ冬だった。
踵を返す。
目を凝らすと誰か１名上って来た。七合辺りですれ違った。中年の男性だった。挨拶はしたが、「ラッセルの礼」はなかった。最近の登山者は「山の仁義」を知らない。
グングン下り風下で、本日初の大休憩。お湯割りの梅酒が美味しかった。
天気は相変わらず良かった。正面には苗場山が長い裾野を広げ、左に赤倉山が尖がっていた。
山を仰ぐと、何と先ほどの輩が八合付近で引き返し下って来た。
強風が更に進んだかも知れない。
「あんこ雪」に足を取られながら登山口着。今回はもう雪はウンザリで、無雪の群馬に向かった。

美しい雪山


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
最高到達点
標高約１９００ｍ
雪庇がすごい
鉄塔あり
物凄い急登
Japan Topo 10M Plus V3
2019/04/07 7:46:15
GARMIN.

１９９７年の記録

山行報告書

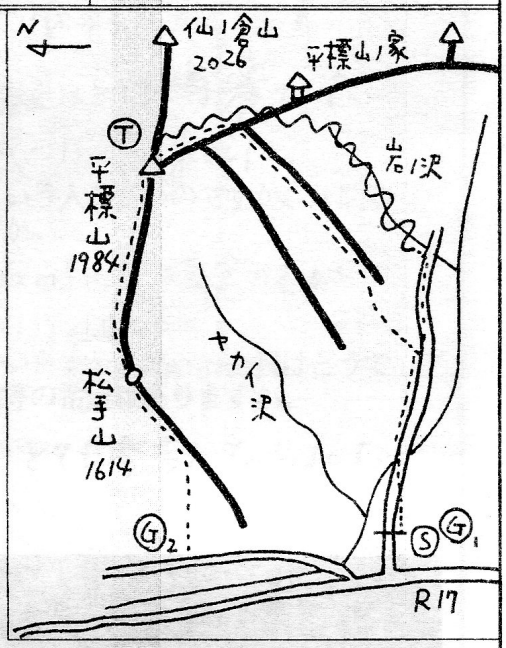
山行名		春山訓練 ・ 山スキーと登山		報告者	大根田元男
山名		平標山（たいらっぴょう・ 1,984m）			
コース及タイム	4・13	起床4:30 民宿『やまご』出発 5:40 ⇨平標駐車場出発 7:00 ～登山口 8:00			
	天候	平標小屋上 9:45 ～平標山10:35/11:10 ～松手山12:20 ～下山口13:55			
標高差		△S登山口 ～T 平標山 ≒ 987m		体力度	1・2・3・④・5・6
		▼T平標山 ～G 登山口 ≒ 987m		技術度	1・2・③・4・5・6
走行距離		～ ≒ Km		展望度	1・2・3・4・5・⑥

参加者					
後藤	50	最高の山スキーができた	来生	48	普通の山歩きでは体験できない
大根田	60	尾根続きの展望は素晴らしい	河野仁	34	疲れたがとても満足
高岡	59	雪庇の上を歩行できた	加藤	48	山ｽｷｰ を始めて本当に良かった

第3日目（無風・快晴）

民宿の叔母さんの見送りで出発。塩沢石打ＩＣから関越自動車道に入り、湯沢ＩＣから17号線を通り平標山登山口へ。この間の山々はスキー場ばかり。さすが雪国と感じいるが山全体が痛んでしまうのでは・・・と心配になる程、数多くスキー場がある。国道と別れて登山道を少し入った道端に１０車輌程車が止めてある。

これより先車が行けないので、私達の車もここに駐車し登山開始。他のパーティも登山の準備をしており、仲間がいると思うと心強い気がする。雪道ではあるが所々雪のない個所があり、帰路のスキー組はスキーの履き替えが大変になるかな？



河内沢に添った平標山登山口迄の道のりは長かった。登山道を少し登ると深雪で道がわからなくなり藪漕ぎの登りになってきた。ブナの樹林帯の尾根を上がるに従い、雑木が少なくなり歩きやすくなってきて助かる。平標山から仙ノ倉山方向の雪原は空の青さとﾏｯﾁしていて素晴らしい景観に全員で暫し見とれる。一息入れて頂上を目指す。途中、軽快な足取りの下山者とすれ違い羨ましい思いがした。

平標山頂上には10人程登山者が休んでいた。展望は 360度。苗場山、浅間山、特に尾根伝いに見られる谷川岳方向の景色は良い。昨日登ってきた巻機山を遠望できて感激。立派な山並みである。昼食後は大根田・高岡・来生の三人が山ｽｷｰ 組と別行動となり松手山元橋道のコースを下る。松手山手前の雪庇は５m以上の厚みで張り出していて凄い迫力。この尾根道の横を慎重に通過するが気分が良いものではない。巨大鉄塔からの下りは道が分からず、先に下った人の足跡を頼りにブナ林の中に出来ている雪沢の急傾斜をピッケル

を使って下る。途中雪の大きな固まりが落下してきて、大木の陰に身を寄せて助かる。先に着いているスキー組と無線連絡をとりながらの下山で、舗装道路に出た所で迎えに来てくれた車のスキー組と合流する。

山スキー隊

記録・河野仁美

身支度を整えて出発する。暫くは平坦な林道歩き。登山口で一息入れ、いよいよ登りにかかる。暫く登ると笹の生い茂った急斜面をやっと登り上げ尾根に出た。ブナ林の尾根だが、未だ枯れ木で左右両方の眺めが良く、気持ちの良い尾根歩きだった。しかし勾配がきつくて登るのに苦労したのは私だけだろうか。昨日の巻機山スキーでの筋肉痛がこたえて、なかなか足が前に出なかった。一番若い筈の私が一番体力がなくて情けなかった。

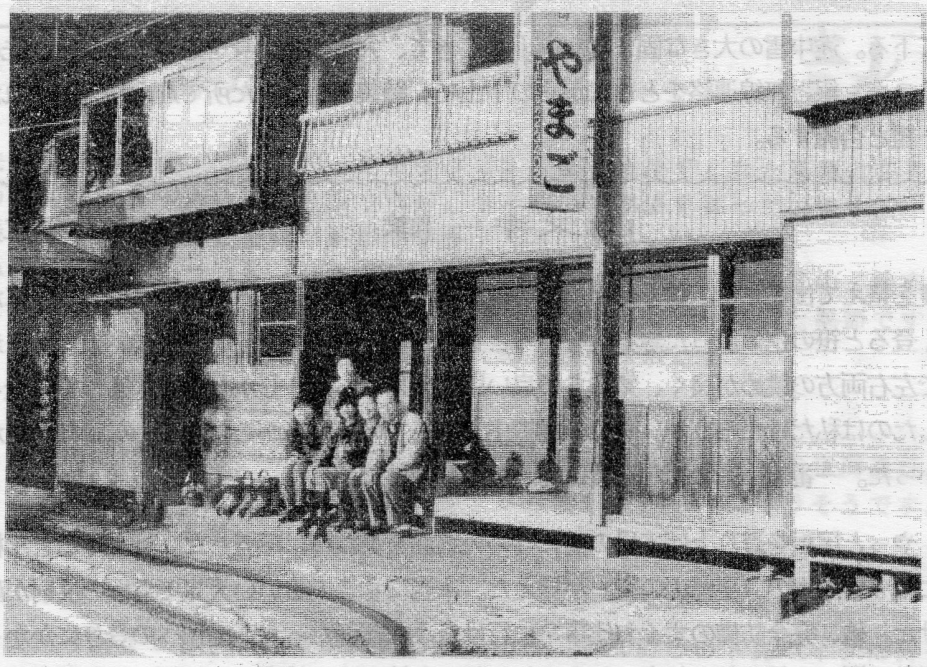
然し、やっと尾根を登り上げて目の前に雪の大斜面を見た時は感激した。見上げると平標山頂、下には赤い屋根の『平標山の家』が見えた。本当にすこぶるいい天気で雪面の反射が顔を照りつけた。皆、完全防備のすぐお仕事？に行けそうな覆面だった。山頂への登りにかかった。ここでも私は置いて行かれてしまった。それにしても皆さんの体力には圧倒されるばかりです。

平標の山頂に立った。最高の眺めだ。 360度どちらを見ても山また山の繋がりだった。昨日登った巻機山、谷川岳も良く見えた。上越の山の懐の深さを実感した。眺めていると丁度ヤカイ沢からテレマークで下る人を見つけた。急傾斜の雪面をシュワー、シュワーと方膝を交互に曲げて滑っている。お〜っとジャンプターンだ。凄い！綺麗に決まった。すごいなぁ〜。

徒歩隊とスキー隊に別れてＣＬ・加藤・私は下山にかかる。昨年テレマークを始めたと言う方も一緒に下る事になった。テレマークターンが決まっていてなかなか上手な方だった。先ずは小屋めがけて大斜面を下った。だだっぴろい雪面を思い思いのシュプールで下った。所々クレバスのようなものがあり、スキーのコントロールを誤ると落ちそうにある。小屋迄下ると次は樹林帯に入った。長い長いトラバースを斜滑降で下った。そして樹の間を縫うように下へ下へ滑って行った。途中で足が疲れ小休止。一口のビールが美味しい！いつも苦労して背負ってくる加藤は口にせず飲んでばかりの私が申しわけない。

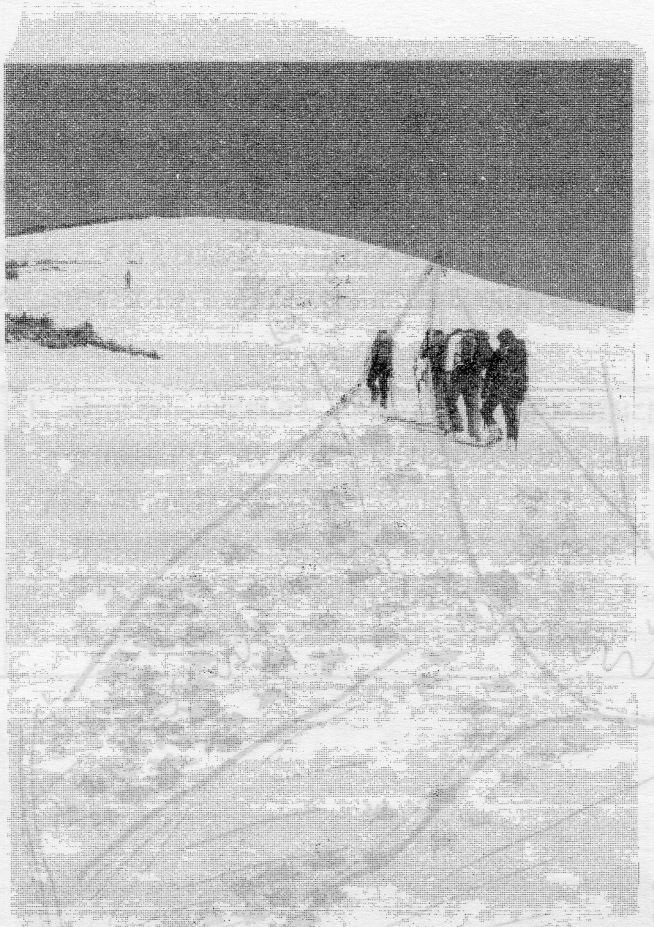
そして暫く下ると崖っぷちに出たのでスキーを脱いでつぼ足で歩いた。暫く行くと既に登山口に戻っていた。後は林道を戻るのみ。然し今年は雪が少ないせいか、林道の所々で雪が溶けて土が剥き出しになっていて、スキーを脱いだりつけたりの繰り返しで苦労した。

途中私と加藤は林道から下の樹林帯へ下りた。自然の中をスキーで歩き回れるのは、殊の外楽しい。然し、調子に乗って下っていくと川っぷちに出てしまったので、慌てて林道迄登り返した。13:00 ようやく車に戻り、先に着いていたＣＬが迎えてくれた。ゲレンデのような広い所や、赤い布印がついているルートなら安心だが、今回のようにルートファィンディングを要



民宿「やまご」の例の縁側で憩う

平標山の美しいブナ林を登る



平標山の夢のような大斜面を登り滑った

実際の山頂はもうひとつ上

する所は、やっぱりＣＬのような山に熟達した人でないと、とんでもない所へ下ってしまう可能性が大きいと思った。その点今回はとても安心してスキーを楽しむ事ができた。

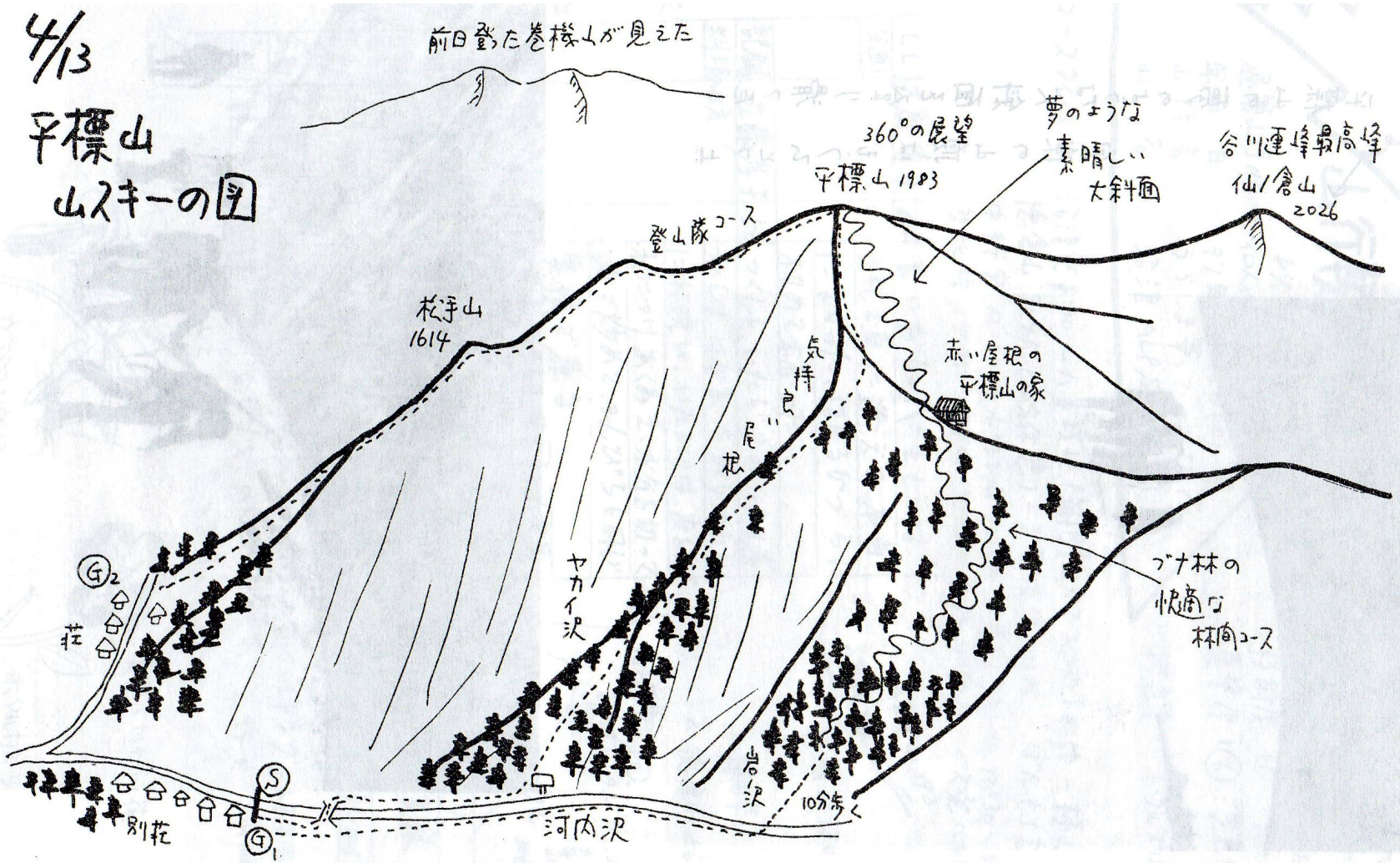
それにしても２日間のハードな山スキーは、私の足の筋肉をコッチコッチに痛れさせた。然し久しぶりのダイナミックなスキーに大満足の山行だった。今回も色々お世話になり有難うございました。

その他の記述	1．登山口からの尾根道と、下山の中腹から舗装道路に出るまでブナの原生林でよい。一か所鉄塔の人工物あり。鉄塔は柏崎の原発から首都圏に電力を送る送電線の鉄塔。高さ 120mと巨大である。 2．今年は積雪少なく、本来下る予定のヤカイ沢はブッシュが多く変更した。 3．平標山の家は未だ雪の中で、丁度掘り出し中だった。 4．岩の沢のブナ林間コースはサイコ～だ～。定番コースにしたい。

↑ 平標山山頂にて　左後方に昨日の巻機山が見える

4/13

平標山 山スキーの図



山行NO　　山行ＮＯ．１８１３－２　　文・加藤　　写真・後藤
日　時　　２０１９．０４．０４．０６（土）快晴・上部風あり
山　域　　群馬・中之条＝高田山（１２１２ｍ）
コース　　駒岩集落発６：５２－鳥居７：３６－水場７：５７－石尊山８：２３－高田山８：５７－水場９：４７～１０：１６－鳥居―駒岩集落１０：４３－帰静
標高差　　上り　登山口約５００ｍ～高田山１２１２＝約７１２ｍ
　　下り　　〃

新潟の「ウンザリ雪山」から撤退し群馬に流れて来た。
群馬はスッキリ晴れ渡り、陽光は眩しく桜は満開。雪は皆無だった。
以前寄ったスーパーに記憶を頼りに到着。このスーパーは、田舎だが大きなもので、刺身など生鮮食料も豊富に置いてあった。

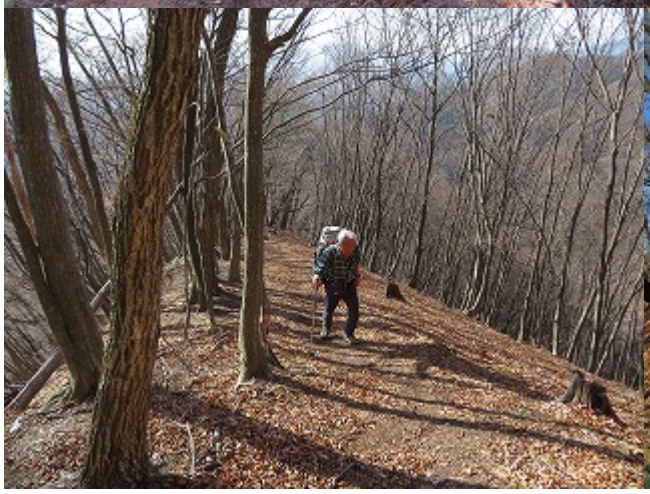
おまけ登山は何処がいいか・・・地図とスマホを開きながら色々模索。
昨日は悪雪で苦労をしたから、今日はスッキリと雪なしの里山がいいと決まりです。
そして群馬・中之条中心街と四万温泉の中間に位置する山で、雄大な山容を持つ山。頂上からの展望は３６０°ヤセ尾根の急登に岩場もあり・・・「これだ！」と、ＣＬの決定に「何やら私好みの山だぞ」と、ワクワクしながら高田山に移動する。

登山口の石屋さん

駒岩登山口は駐車場はないが公民館を利用できた。
駒岩集落中央の「岡田石材店」が登山口だった。ただ、車道に標識がないので、分かり難い。
人家へ行く道？と思わせる登山道を入っていくと「ヤマビル注意！」の看板あり。ヒル対策として塩水スプレーが置いてあったが今の時期は大丈夫なのか３本とも空だった。

今は昼だが「ヒル」には出会いたくない。
うっそうとした杉林の道は成程ヒルが好みそう。落葉が積もった両脇は避けて、なるべく裸地になっている真ん中を歩くが、足元がムズムズしてくる。
ダラダラした林道から、山道に入ると直ぐに針葉樹林の中に石の鳥居があり一礼してから裏手の急登に取り付いた。

昨日の平標山に勝るとも劣らない傾斜のある急な斜面はジグザグにきってあり、
冬枯れの雑木林が明るい陽ざしを浴びて輝くように美しい。紅葉の頃はさぞ凄いだろうなと思わせる。
石尊山（標高１００４ｍ）への更に急な道を登ると、山頂は岩塊の上に小さな石祠が祭ってあった。
山はその名の通り、大きな岩壁に守られていた。



美しい自然林　　**夏の水場**

石尊山　　**谷川連峰遠望**

その後ろには昨日登った平標山からの連なりの山々の展望が広がっていた。
暫し山座同定。平標は、一番左に見えた。
汗を拭き、これからは痩せた稜線を辿るアップダウンの尾根歩き。
情報通りの左右が切れ落ちた直下降、直登の木の根、岩をつかんでの重心の移動だ。そう言えば居合わせた住民が言ってたっけ。「落ちた人がいる」って。

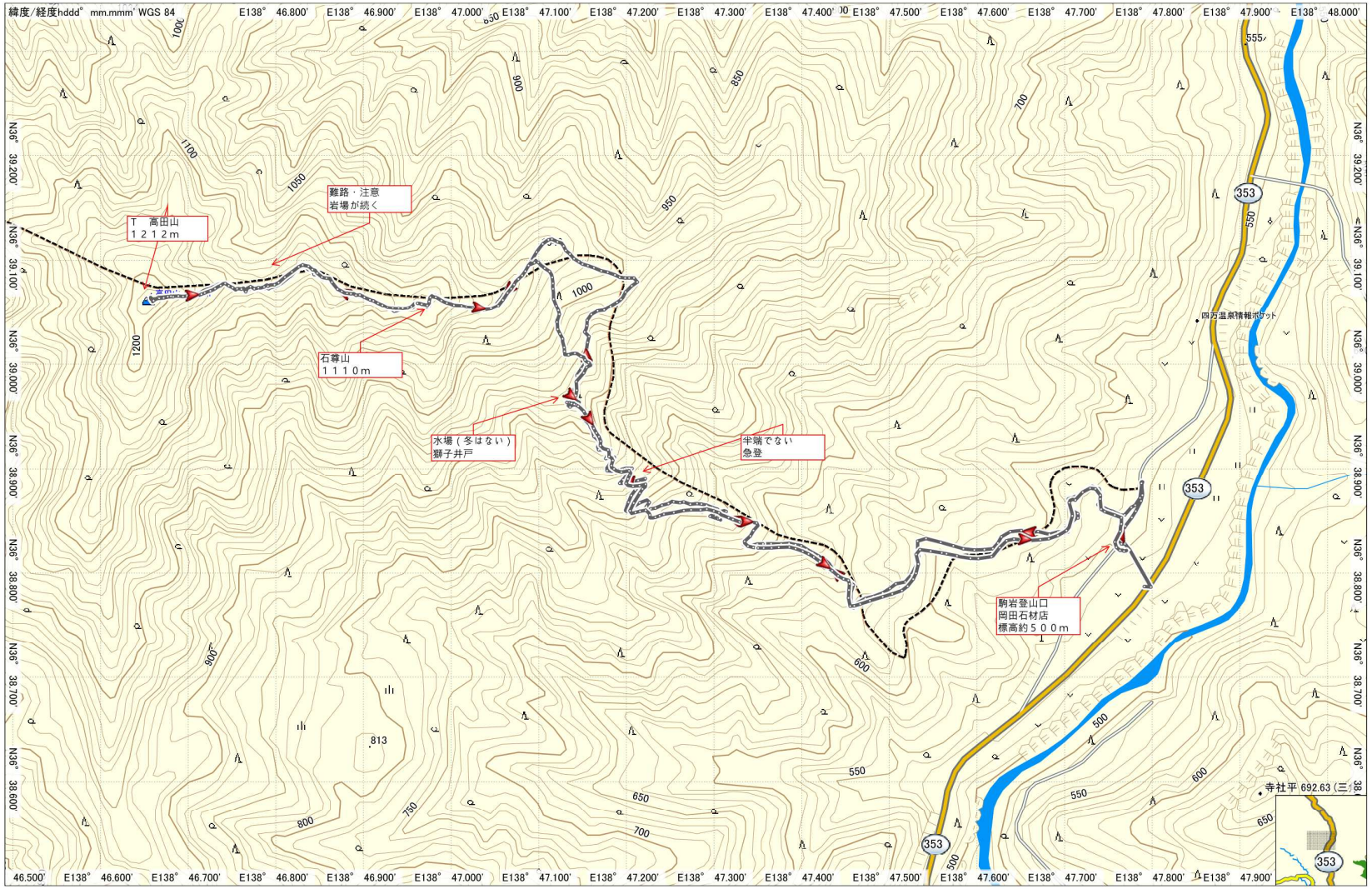
此処で足を滑らせたらやっぱひとたまりもないだろうねぇ・・・と慎重になる。
だが行程に変化があって面白くて歩くのが楽しい！

雑木林がサイコー

１２１２ｍの山頂は一等三角点があった。遠くに見える平標山には雪煙があがっている。今日も風が強いのだろう。此処も頭上では風が唸り声をあげて時折突風が身体をよぎっている。
下りの心配がなくなる石尊山まで行ってからゆっくりしようと言う事で、そそくさと下山開始。
痩せ尾根のアップダウンを通り越し、石尊山へのショートカットで、獅子井戸の水場の分岐点まで下ってやっと一安心という所で腰を落ち着けた。勿論ビヤで乾杯！私はチョッピリワインを一口、二口頂戴する。

標高は低いし山名は平凡で優しいが、ところがどっこい「山椒は小粒でもピリリッと辛い」。なかな～か手強い里山だった。
風がないと春そのもの。ポカポカと温かく日だまりの中で、山への満足感に浸りながらこのひと時を楽しむ。この年齢になるとこういう山も又いい。
あとは駐車場まで一下り。ジグザグの折れる角では、「ジャンピングターン！」声をあげながらスキーのターンの真似をする。足を揃えてピョンと踵をかえす。中高年が童心にかえった一日でした。

駒岩公民館


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
T 高田山
１２１２ｍ
難路・注意
岩場が続く
石尊山
１１１０ｍ
水場（冬はない）
獅子井戸
半端でない
急登
駒岩登山口
岡田石材店
標高約５００ｍ
四万温泉情報ポット
寺社平 692.63 (三
353
2019/04/07 7:46:15
GARMIN.

２０１９・お花見　　４月０７日（日）　沼津・角池

日本勤労者山岳会連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会

会報「れいほう」
第 25 期　12 巻　NO.212
２０１９・４月号

連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12　徳山荘
090-8956～9990　055-986-6075
後藤隆徳

ＨＰ　http://susono-reihou.babyblue.jp/